

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム（感染症研究分野）
令和3年度事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	環太平洋地域における渡り鳥の東アジアおよびオーストラリア飛翔路に沿った人獣共通感染症病原体としての鳥インフルエンザウイルスのグローバルな伝播に関する研究
研究開発代表者	迫田 義博
代表機関	北海道大学

○評価委員会コメント

本研究課題では、環太平洋地域における野鳥・家禽の鳥インフルエンザに関するグローバルサーベイランスが実施され、分離したウイルスのゲノム解析に基づく鳥インフルエンザウイルスデータベースシステムが構築された。特に、既存の情報を統合したビッグデータを基盤としたデータマイニングにより、渡り鳥における鳥インフルエンザウイルスの生態学的伝播様式が解明されたことは評価委員会において高く評価された。また、当初高病原性鳥インフルエンザウイルスのデータを用いて鳥インフルエンザ早期警戒システムの開発をする予定だったところ、平成30年度、令和元年度は高病原性の発生が少なかったことから、計画を変えて低病原性のデータを用いた早期警戒システムの開発基盤を形成したことも適切な対応であったと評価された。さらに、当初計画に従い、十分な連携体制のもと、目標とする研究内容をほぼ達成した。得られた成果は今後の鳥インフルエンザウイルス対策において有用なツールとなることが期待される。

一方、今後の高病原性ウイルスへの応用に向けては、継続的なサンプル収集・解析に加え、構築されたシステムの有効性の評価が必要と示唆された。また、COVID-19の流行により、若手研究者の相互派遣やワークショップの現地開催が当初計画通りに実施できなかった事は残念であったが、これからも継続的に実施しより良い成果を出していただきたい。今後のフォローアップ研究において、ベトナム側の若手研究者がビッグデータ解析や早期警戒システム構築を学び、東南アジアの科学技術向上に貢献していくことが期待される。